

株式会社ユーグレナ

社会的課題解決と収益の両立

グラミンユーグレナの緑豆プロジェクトを通じて、2022年にはバングラデシュ小規模農家7,000人への雇用創出と収入増を実現し、ロヒンギャ難民への食料500万食分を供給します。

<目標・取組>

- ① バングラデシュの零細農家やロヒンギャ難民が抱える社会課題を解決するためのビジネスを以下のように継続・拡大します。
- ② 2020年の契約農家数2,000人を2022年には7,000人規模へ増やす計画を立て、これにより2020年100万食の供給実績を2022年迄には500万食分に供給に引き上げます。
- ③ 現地における農産物の選別・加工の技術指導と設備投資を実施し、生産性の上昇によって地元農家の自立を促し長期的な継続を目指します。
- ④ 日本各省庁や国連機関との連携し、民間企業としての知恵と経験の活用によって、官民連携の理想的なロールモデルとして普遍化を目指します。

<達成状況（2023末時点）>

2022年には3247名の、2023年には6527名の登録農家と提携し、緑豆の購入を行い、ロヒンギャ難民へ緑豆ダルを供給しました。

農業支援ソーシャルビジネス(緑豆)



<目標の更新>

GENKIプログラム：バングラデシュのスラムに住む貧しい子ども達の栄養問題解決のために、1日約9,000人の子供たちに平均週5日、ユーグレナ入りクッキーを配布します。

<目標に向けた今後の取組>

GENKIプログラムは2014年から10年以上にわたり取り組んでいます。今後も継続してユーグレナ入りクッキーの配布を行います。



<関連情報>

[バングラデシュ農業で目指す、国内初の「ソーシャル調達」とは？ -](#)

[Sustainable Times](#)

[ユーグレナGENKIプログラム | ソーシャルビジネス | 株式会社ユーグレナ](#)

(東京栄養サミットアクションプランにおいて賛同した項目)

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 食料システムの変革 | <input checked="" type="checkbox"/> 個人の栄養に関する行動変容の促進 |
| <input type="checkbox"/> 食関連産業のイノベーションの推進 | <input checked="" type="checkbox"/> 途上国・新興国の栄養改善への支援 |

【企業・団体の概要】

企業フィロソフィー： Sustainability First (サステナビリティ・ファースト)

事業内容

- ・ユーグレナ等の微細藻類等の研究開発、生産、食品、化粧品の製造、販売
- ・ユーグレナ等の微細藻類等のバイオ燃料技術開発、環境関連技術開発
- ・バイオテクノロジー関連ビジネスの事業開発、投資等